

本府東本願寺巽。締禱寺宇。賜今扁號也。蓋爲欲擬尾陽久昌道崇母氏舊踪乎。便安于考妣之神主。以微資香積緣也。譽亦讚依正師繁應和尚爲開祖。自居二世。然後日資幽明福。一日玉泉公薨於府城。府君教譽侍靈几。斂葬儀。宛乘炬職。自不拒劬勞。酬檀恩。且祠堂實于玉泉公之牌位。到今奉香燈者其遺範也。譽亦尋遷化矣。三世白蓮清公。始住榮德。津田等請續虛席。易地於今處。革新院宇者。清公中興力也。易地者官促也。古地者官免也。今出年稅金三兩也。雖官換賜他地。不敢往者。以自惑衆檀。請勾引於此地也。非官裁也。清公再造功酷多。一歲結制業有二千指。堂中舉逸養公爲上首。養公後分化於若州發心。清公老欲攝退鼓。招養公於後席。自在西堂唱滅。養公住務有年。亦赴請于越之心月。衆檀等屈請龍國主心安傳公。主院事。於此大興百廢。弘化緣。故人僉歸崇也。傳公者養公上足也。始首衆于備州源樹。後創龍國居之。予時爲驅鳥。及壯遊歷大方。攝太平澄公頒半簷。一日歸省。強勸進山者。先師傳公之盛舉也。師病日嗣授後。囑予曰。當寺重興日深。殿宇盡衰。衰久思復修。天不假數年。遺憾于此。所望竭力修造。爾來得

此重荷。均鳴化啄。汲々於土木役。雖無彫猪美。漸遂挿艸功。復理數字。添塑像。結建制會。增什物。都是白毫之餘輝。先師之垂念也。偏耗衆膏脂。未曾報涓埃。乞鳥毛請在後。聊記寺與主頭末。爲後住者略備稽古矣。實永三年丙戌臘月望。現住四代雪溪記。

右長文といへども、當寺創立以來の頭末をば巨細に記載し、實に當寺の緣起なりしゆゑに、今全文を爰に載す。文化三年の由來書には左の如く記載す。

加州石川郡金澤堀川久昌寺由來書

一、當地開闢は明岩首座。慶長十五年造立。至當年百九十七年に罷成申候。

一、明岩首座、生國は尾州。俗姓者信長公之末孫。幼少之時於尾州久昌寺遂出家。玉泉院様御縁類故、御當地に罷越候。微妙院様其由被聞召、則東本願寺近所に而寺屋敷御申付候。從玉泉院様、信長公菩提所尾州久昌寺与同寺號に被仰付候。

一、玉泉院様御逝去之節、明岩首座從微妙院様御城中に被爲召、御剃髮御燒香等相動、明岩首座死後、右之寺屋敷

爲御用被召上、只今之地に罷越、地子相立申候。依而其後右之趣を以拜領相願候處、天明六年五月朔日只今之寺屋敷拜領被仰付候。

一、玉泉院様御寄進物等御座候處、百五十七年已前當寺無住之砌紛失仕候。

右之外由來并緣起・御寄進狀等無御座候。以上。

文化三年四月 久昌寺

按するに、當寺山號三箇屋版六用集には益葉山とあり。

○久庵桂昌大禪定尼小傳

享保十九年撰述過去帳に云ふ。久庵桂昌大禪定尼。織田信長公室也。尾州小折邑主生駒藏人家宗女也。信忠・信雄・信康室三人母君。永祿九年丙寅五月十三日。掩粧于尾州小牧山。玉泉院公之母君也。とあり。金澤八坂鶴林寺の境内に、玉泉院殿母堂の墳墓あり。同寺由來書に、越中國守山に在寺之頃、玉泉院殿之母堂元和四年三月三日逝去也。遺骸を寺中へ被移。墳墓于今當寺に有之。戒名春譽妙澄大姉と云ふ。とあり。されば、玉泉院君の母堂は、鶴林寺に墳墓ある春譽妙澄大姉なり。蓋し是は其の生母なりしゆゑ、

玉泉院君に隨從して、北地へ來り居られたるにや。彼の久庵禪尼は、信長公の室家なりし故に、是も母君とあるならんか。按するに、生駒氏家譜に、生駒内膳直勝。實信長公之遺腹子也。元龜元年時年七歳。公始徵之。賜平姓。生駒氏且左文字佩刀。申之以祿。蓋生駒。公之母家氏也。とあり。また生駒内膳直勝長男二代内膳直義。其子三代内膳直方母織田氏。内府信雄公之女也。瑞龍公之室玉泉院殿。右府公之女也。以直勝有奸於平氏。告微妙公爲玉泉院殿之養女。嫁與直義。とあるも、久庵禪尼の内縁ありしゆゑなること知られたり。

○久昌寺開山堂

當寺開山堂に安置せる道元禪師の肖像は、靈異いちじろく、如何なる由縁なりけん、男女の縁を結ぶ事を祈願するに、必ず靈驗有りとして、祈願人常に絶えず。祈願人男女の縁を結ばんと願ふものは、其の男或は其の女の年齢と名とを記して、肖像の錫杖にくり付けて祈念するに、必ずその事叶うて、日ならず婚縁相整ふ事不思議なりといひ傳へたり。或は云ふ。是も産靈神の幸ひに據れる靈異ならんか。